

京都マルイ

- ☞ 所在地：京都市下京区四条通河原町東入真町68
- ☞ 業 態：専門店
- ☞ 設置者：住友不動産株式会社（東京都新宿区西新宿二丁目4番1号）
- ☞ URL：<https://www.O101.co.jp/O88/>



＜地域・社会貢献に対する取組方針＞

丸井グループは、すべての人が取り残されることなく「しあわせ」を感じられる、インクルーシブで豊かな社会を目指し、「インクルージョン※」視点で取組を進めており、SDGsの理念のもと、以下の4つの重点テーマを基に推進しています。

①お客様のダイバーシティ&インクルージョン ②ワーキング・インクルージョン ③エコロジカル・インクルージョン ④共創経営のガバナンス

※ インクルージョンとは、「これまで見過ごされてきたものを包含する・取り込む」という意味で、SDGsの理念と同じ方向性を示すものです。

◆地域・社会貢献の取組

①展示・イベントスペースの提供

地域振興等に精力的に取り組む団体等に対して、積極的に展示・イベントスペースの提供を行っています。

～自然志向の次世代ライフスタイル～

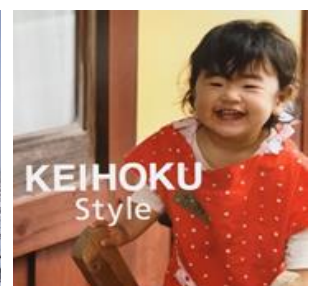
◎「KEIHOKU Style」展

京北地域は、右京区の北部に位置し、総面積の9割以上を森林が占める緑豊かな地域であり、「KEIHOKU Style」とは、自然志向の若者たちが都会から移り住むことで、伝統と新しい世界が混ざり合い、そうして芽生え始めた次世代のライフスタイルを指します。

当店では、これまでに「KEIHOKU Style」展を4回開催し、京北地域の林業や暮らしの展示、京北製品の展示販売、ワークショップなどを通じて、地域の魅力発信を行いました。

■取組のきっかけ

京北地域には、自然と共生する知識や文化が今も暮らしの中に生き続けています。当店ではその素晴らしさに共感し、普段、この素晴らしさに触れる機会のない方々と地域とを繋ぐお手伝いができればと考えました。





■成果・効果（お客様の反応）

開催を重ねるごとに、京北地域の皆さんが自身が暮らすまちの資源に気づき、パネル展示のみならず、鹿の角を使ったアクセサリ作りや間伐材を使った箸作りなどのワークショップの開催へと発展していきました。それ故、多くの来場者の方が楽しみながら、京北の良さに触れ、肌で感じ、京北地域に目を向けるきっかけづくりに寄与できたと感じています。

■取組に当たり工夫した点

補助金や助成金ありきの地域創生、イベント開催ではいけないと感じ、どうしても自立と継続ができるかを主催者と当店とで共に考えながら進めることを重要視しました。

■今後の展開

今回の取組を成功事例とし、今後さらに練り上げ、定期的に行なえるようにしていきたいと考えています。また、京都には魅力的な地域、もっと知りたい地域がたくさんありますので、京北地域に限らず、他の地域についても同様の取組が実施できればと考えています。



～農業と福祉がつながって、地域を元気に～

◎「ノウフクマルシェ」

「ノウフクマルシェ」とは、「農」と「福祉」の連携によってできた農作物の展示・即売会で、全国の福祉事業所で手掛けた新鮮な農産物や加工品を取り扱っています。この取組は、担い手の減少に悩む農業分野に障がい者が参画することで、農業の働き手の問題と福祉の働く場づくりという、双方の課題を解決する手法として注目を集めています。

当店で、平成29年に1階店頭において開催し、旬の野菜や菓子類等が並び、大勢の買い物客で賑わいました。



■取組のきっかけ

障がい者が自立できる取組という点に共感し開催に至りました。「農」と「福祉」の連携は、農業従事者の減少や耕作放棄地の増加等の課題に対して、障がい者が農業に関わることで補うとともに、障がい者にとっては、就業機会の確保や収入の増加に繋がるもので、小売の立場で「農」「福祉」に連携することが、それぞれの課題解決に繋がり、ダイバーシティでイン



クルーシブな取組を実践できると感じたためです。



■取組に当たり工夫した点

「農」「福祉」「小売」が連携し、様々な課題を解決して、購入される方も幸せを感じられる訴求をしたことです。また、今後も継続して取組ができるよう、振り返りやアンケートを実施して意見を共有しました。

■成果・効果（お客様の反応）

当日は、大勢の買い物客で賑わいました。会場では、事業者・お客様・企業・地域・都道府県・国・メディアを「繋げて、伝えて、提供する。」ことが実践され、それぞれが協力合いながら繋がり、一体となった素晴らしいマルシェになりました。来場者からは、「農福連携について知るさっ

かけとなった。」「良い取組なので、もっと広がってほしい。」といった意見が寄せられ、大変ご好評でした。



■今後の展開

定期的な開催がお客様の期待にも繋がり、事業者の方も安定した生産と収入を計画できると考えますので、次の取組を計画していきます。

～**産**学連携で、次世代のクリエイターを育成～

◎「夏を彩る伊勢木綿」展

「夏を彩る伊勢木綿」展は、京都造形芸術大学の学生が、デザインから染色、縫製等の工程を自ら手掛けた作品の展示販売会で、最前線で活躍するクリエイターの指導のもと、アイデアの考案から制作・販売までを実践形式で学ぶカリキュラムの1つです。今年は当店の1階店頭で一週間にわたり開催しました。





■取組のきっかけ

当店の店頭で開催していたイベントを見た大学の先生からご相談をいただいたことがきっかけです。この取組は、大学生が経験を通じて様々なことを学ぶことができる非常にいい機会であり、サポートさせていただくことで地域の夏の風物詩のお役に立てればと考えました。

■取組に当たり工夫した点

極力学生を主役にして、自主的な運営を行うこと、アドバイスをする際は、学生自身が「自分は商人なんだ、プロなんだ。」と意識できるように伝え方をしました。



■成果・効果（お客様の反応）

次第にコレクターのお客様が増えてきており、「京都らしいテーマが土産として良い。」「毎年楽しみにしている。」という声もいただいています。中には、テナント販売に昇格するような学生もあり、私たちもとても楽しみにしています。

■今後の展開

京都四条河原町という好立地で商いをさせていただいておりますので、京都を感じていただける催しを、企業の方だけでなく、学生や地域で頑張っておられる方々と共に盛り上げていきたいと思っています。

②店内内装等への地元産品の活用

積極的な地元産品の活用やPRなど、地域経済の発展に寄与する取組を積極的行っています。

～北山丸太でお・も・て・な・し～

◎店内装飾に北山丸太を使用

北山丸太は、京都市の北西部（北区中川を中心とした地域）で室町時代ごろから育てられた北山杉の皮をむき、加工して作られたもので、材質が緻密かつ木肌が滑らかで光沢があるのが特徴です。当店では、店舗のリニューアルに合わせ、誇るべき地元産品である北山丸太を使った腰掛けベンチや壁面装飾等を取り入れました。

■取組のきっかけ

もともとは、京都市が北山丸太のPRに繋がる民間の取組を募集し、その際に手を挙げて採用されたことがきっかけですが、木育や地元産品の活用の重要性、そして何より、美しさに強さを兼ね備えた北山丸太の素晴らしいさを実感し、当店が独自で北山丸太を店内に使用するに至りました。

■取組に当たり工夫した点

北山丸太を間近で見ると、年輪が細かく、職人のすばらしい枝打ち技術や努力を感じることができます。そのため、ぜひ近くで見て、独特で光沢ある木肌に直接触れてもらいたいという想いから、できるだけ来客者が触ることができる場所に使用できるよう心がけました。当店で北山丸太に触れ、知ってもらい、現地に足を運んでもらえれば幸いです。



■お客様の反応

多くの来客者が北山丸太のベンチでくつろいだり、名所を輪切りの丸太で表示した観光マップを興味津々に眺めたりと、北山丸太を近くで見て、触れる機会を提供できていると感じています。中には、感銘を受け、自身のSNSに投稿する観光客もあり、大変嬉しく思っています。



■今後の展開

今後も店舗のリニューアルの際には、北山丸太の活用に役立てることがないか考えていきたいと思っています。

取材者ひとこと

京都マルイさんは、“地域に愛されること”をととても大切にしており、積極的に地域・社会貢献に取り組む、都心地区全体の集客やまちの活性化に寄与することを常に考えておられると感じました。

店内には今回取り上げた北山丸太がふんだんに使用され、とてもあたたかみのある空間になっていますので、直接見て、触れて、感じていただければと思います。